

公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

2019年度(平成31年度) 事業計画書



(平成31年2月24日理事会 議決)

2019年度事業方針と重点テーマ

「2020年以降をみすえ、事業の見直しと体制を強化する」

平成30年度は、受託事業を中心とした「事業部門」と資源循環事業を中心とした「寄付文化・資源循環部門」の部門制を設置し、事業体制や役割を明確にすることで事務局一人一人の力を発揮しやすくし、事務局体制の強化に取り組んでまいりました。

その中で、西日本豪雨災害があり、その対応のために災害支援基金「ももたろう基金」の設置を行いました。今まで培ってきた経験や仕組みを活かし、災害発生直後から寄付募集を行い、発災後4日目には助成募集を開始しました。多様性やスピード感というコミュニティ財団の強みを発揮できた一方で、事業の仕組みや事務局体制の改善点などもみえた一年でした。

2019年度は、地域力向上支援事業(2016～2018年度岡山県受託事業として実施)で培った民間の助成団体や自治体との関係性をより強化していきながら、あらためてコミュニティ財団としてのみんなつくるの役割を意識し、それを果たすための仕組みや体制の見直し・強化をはかっていきます。

休眠口座活用法案やSIBなど様々な社会的事業への資源循環の仕組みが動き出す中、2020年代により大きな社会変化がおきていくなかで、「新しい価値の創造」「地域課題への対応」への取り組みを加速させるインフラであるために、機能強化に取り組んでいきます。



様々な立場の人、ひとりひとりが、自分の未来に対して主体的に取り組み、希望をカタチに出来ることを実感する、コミュニティ財団が地域にある意義・価値を体感できるように引き続き取り組んでまいります。

【2019年度2本の柱】

○「そだてる」機能の強化

NPO 団体の事業の支援のみでなく、経営力を高めるために様々な社会資源とのマッチングや機会の提供を行う。

特に県内の他の助成団体やソーシャルライターなど社会資源とのマッチングの機会を増やし(イベント等の実施)、NPO 団体の自立心・経営力を育む情報提供やセミナーを実施し、活動の成果、可能性が広がるように取り組んでいく。

○ みるつく機能「つなぐ」力の強化と事務局強化

「つなぐ・つたえる・シェアをする」というみるつくが本来持つ機能強化に取り組む。2018年度までの取組の分析を行い、事業の仕組みの見直しを行うとともにマニュアル等の再整備を行う。

また、事務局の人材育成制度と評価体制を整備することで事務局の強化を図るとともに、ツクル日のイベントなどを活用し、ボランティアのコミュニティ化や専門家との連携を強めていく。

**2019年度もともに
歩みましょう！**



【事業内容】

A.資源循環事業

(1) 助成事業

ア 事業指定助成プログラム

事業を公募し、審査委員会で審査後、その事業に賛同する市民・企業から寄付募集を行い、寄付金を財源として助成を行います。

(今年度のポイント)

- ・団体支援の担当制度を構築する。(担当者は理事もしくは研修受講後の外部ファンドレイザー)

■上半期、下半期2回の実施

30~50万の事業 × 4プログラム程度

イ 冠基金事業

基金を設置したい市民・企業から寄付金を募集し、寄付者の意向に従いテーマ設定をし、そのテーマでの事業を公募し、助成します。

(今年度のポイント)

- ・助成申請数増加のために、情報提供力の強化
- ・助成団体連絡会の活用によるマッチング機会を増やす

■第6回助成の実施

第2四半期理事会において、助成方針を決定し、冬頃事業募集を実施する。特に今年度は、助成を届けることに力をいれ、ソーシャルライターや地調査員の活用など情報発信力を強化し、助成を行います。

ウ 社会変革基金

取り組まなければならない課題を可視化し、その課題解決に必要な資金を広く市民に基金を設置し、チャレンジを促すために助成を実施します。

(今年度のポイント)

- ・社会変革基金の寄付募集を増やすために発信力の強化
- ・ももたろう基金2020年度の取り組みについての検討

■地域助け合い基金（継続）

■みんつく子ども基金（継続）

第 2 四半期理事会において、今年度の助成方針を決定し、冠基金と同様に募集を行う。

■ももたろう基金（継続）

年間を通じて募集を実施し四半期ごとに審査を行う。また、理事会毎にその時点の状況をふまえて、募集方法の検討を行う。

(2) 円卓会議

様々な分野の人が集まり、一つのテーマについて考える会議の実施、課題について話すことで知恵や情報をだしあい、解決のための役割分担や啓発を行います。補助金・委託、クラウドファンディング等を活用し、助成設計の前段階として実施検討するとともに、行政や市民団体等から依頼があったテーマについて開催またはコーディネートを実施します。

B 寄付文化創造事業

チャリティーイベントや寄付文化について考える交流会、またイベントなどでの寄付付商品の開発などを行い、寄付を体験する機会を提供するとともに助成事業等の原資になる寄付集めを行います。

■ 募金箱と乾杯チャリティキットの設置場所のコミュニティ化

募金箱や乾杯チャリティキット設置場所に定期的に情報提供するなど関係性を強化し、コミュニティ化します。

■ 「ツクル日」企画の開催（毎月 29 日頃）

毎月 29 日頃に、寄付や社会的投資に関わる企画を実施します。
特に 3 月 29 日は、「みんつくの日」として事業報告会を兼ねた交流会を開催します。

■ 交流会・報告会の開催（年 2 回以上）

寄付者や助成団体などの交流会（7 周年記念交流会など）や報告会を開催し、みんつく財団に関係する人の交流の輪を広げます。

■ 寄付月間の活用

12月の寄付月間にNPOや企業等と連携し、寄付キャンペーンを実施します。

■ 寄付の教室の開催（年1回以上）

寄付の教室を開催し、寄付やお金の使い方について考える機会を提供するとともに、学校や先生との連携強化し、岡山県内での機会提供の仕組みを構築します。

C 情報発信・人材育成事業

公益活動支援に関する内容について、講師・研修依頼およびコーディネートを受け付け、講演・研修・ノウハウ移転を実施します。また当法人主催で資金調達や情報発信など市民公益活動に必要な研修会を実施します。

■ 「+1セミナー」の開催（毎月9日頃）

毎月9日頃に、寄付や市民公益活動に関するセミナーを開催します。通常は無料開催で、外部講師招へい時やファンドレイジングに関する専門講座は有料で開催します。内部人材育成の機会としても活用します。

■ 講師派遣（年1回以上）

依頼のあった地域、団体に講師派遣を実施します。

■ ノウハウ移転事業（1団体以上）

自治体や公益団体に対して、資金調達や資源（補助金等）活用についてノウハウ移転および支援を実施します。2019年度は、瀬戸内市の協働事業などを実施します。

■ ソーシャルライター講座の開催（年1回以上）

地域の情報を発信するソーシャルライター講座を開催します。今年度は、助成した団体の活動発信を意識し、講座受講後に発信、交流の機会提供を行っていきます。

D 調査研究事業

地域資源に関することや資金調達に関すること、地域課題に関することの諸調査を行い、その成果を発信するとともに、効果的な資源循環の仕組み構築に役立てます。また、必要に応じて、Share 会議（市民団体による公開課題提案）を実施し、地域の課題のタネを収集し、調査研究や資源循環事業へと発展させていきます。

■ 地域調査員の活用（年 1 回以上）

情報収集・発信体制の強化のために、地域調査員や地域の核となる NPO を対象に情報交換会（交流会）を開催いたします。

■ コミュニティ財団や社会的投資市場に関する研究

全国コミュニティ財団協会の情報交換会や会議を活用し、他県の状況や休眠口座活用法案等の制度のことなど情報収集を行います。

■ 助成団体連絡会の開催

平成 28 年度から実施していた地域力向上支援事業の内容を継続し、自治体や公益団体、金融機関と情報交換会を実施するとともに、合同説明会の開催を他の助成団体と協力して行います。

■ 「Share 会議」の開催（毎月 19 日頃）

毎月 19 日頃に、団体の活動発表の機会を設けます。特に割り勘申請団体の活動の拡散や、地域で必要な取り組みを育てるため、地域調査員や理事から情報収集を行い、候補団体に情報提供を行い、活動が進むようなサポートを行います。